



Space within Your Reach

～宇宙を普通の場所に～

株式会社アクセルスペースホールディングス
東京証券取引所グロース市場(証券コード:402A)

代表取締役 中村友哉

2026年2月27日

免責事項

本資料は、情報提供のみを目的として株式会社アクセルスペースホールディングス(以下「当社」といいます。)が作成したものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関するご決定は利用者ご自身の判断において行われるようお願い致します。万一これら情報の利用者が何らかの損害を被ったとしても、当社および当社の情報提供者は一切責任を負いません。

本資料の作成にあたり、当社は当社が入手可能なあらゆる情報につき、その真実性、正確性や完全性に依拠し、前提としていますが、その真実性、正確性あるいは完全性について、当社は何ら表明及び保証するものではありません。本資料に記載された情報は、事前に通知することなく変更されることがあります。

本資料及びその記載内容について、当社の書面による事前の同意なしに、第三者が、その他の目的で公開又は利用することはできません。将来の業績に関して本資料に記載された記述は、将来予想に関する記述です。将来予想に関する記述には、これに限りませんが「信じる」、「予期する」、「計画」、「戦略」、「期待する」、「予想する」、「予測する」又は「可能性」や将来の事業活動、業績、出来事や状況を説明するその他類似した表現を含みます。将来予想に関する記述は、現在入手可能な情報をもとにした当社の経営陣の判断に基づいています。そのため、これらの将来に関する記述は、様々なリスクや不確定要素に左右され、実際の業績は将来に関する記述に明示または黙示された予想とは大幅に異なる場合があります。したがって、将来予想に関する記述に全面的に依拠することのないようご注意ください。

本資料に記載されている将来予想に関する記述と実際の結果との間に不一致をもたらす可能性のある要素については、EDINETに掲載されている当社の有価証券報告書にも記載されていますので、ご参照ください。

本資料に記載されている当社以外の企業等に関する情報及び第三者の作成に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、そのデータ・指標等の正確性・適切性等について、当社は独自の検証は行っておらず、何らその責任を負うことはできません。

目次

- I. 当社の成り立ち
- II. 事業概要
- III. 事業戦略

GRUS-3及びGRUS-3αのミッションを搭載する衛星汎用バスシステムの開発および実証は、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の下記助成事業によるものです。
「宇宙産業技術情報基盤整備研究開発事業(超小型衛星の汎用バスの開発・実証支援)／衛星コンステレーションのワンストップサービス実現に向けた超小型衛星実証事業」(2023～2026年度)
※2021-2022年度は経済産業省直執行事業にて実施。

本日お伝えしたいこと

1. 当社の強み

短期間・低コストの小型衛星製造が可能です。(P.11)

2. 当社の事業

小型衛星を用いた2つの事業を行っています。(P.12)

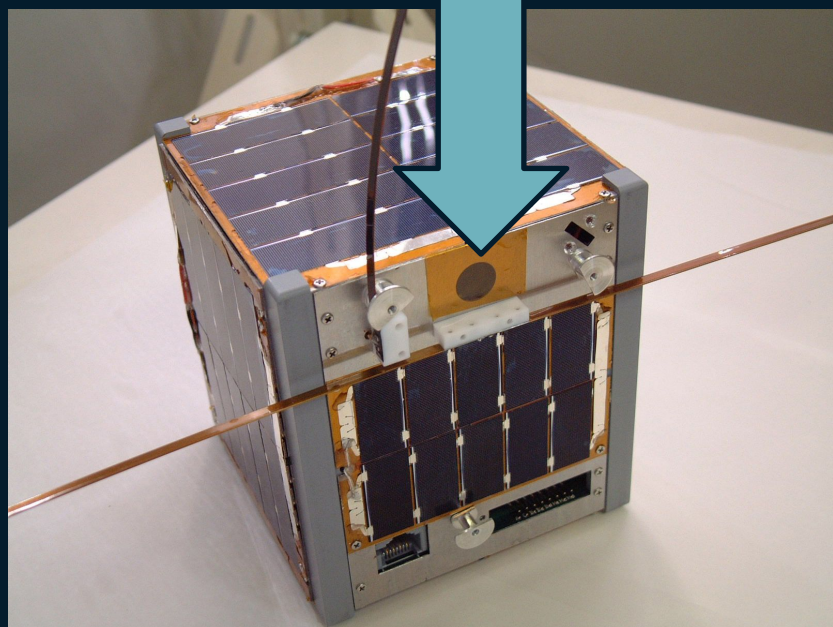
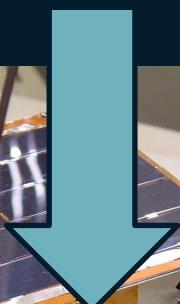
3. 今後の成長

足元480億円の案件を新規受注し、
大きく成長していきます(P.23)

当社の成り立ち

アクセルスペースの起源

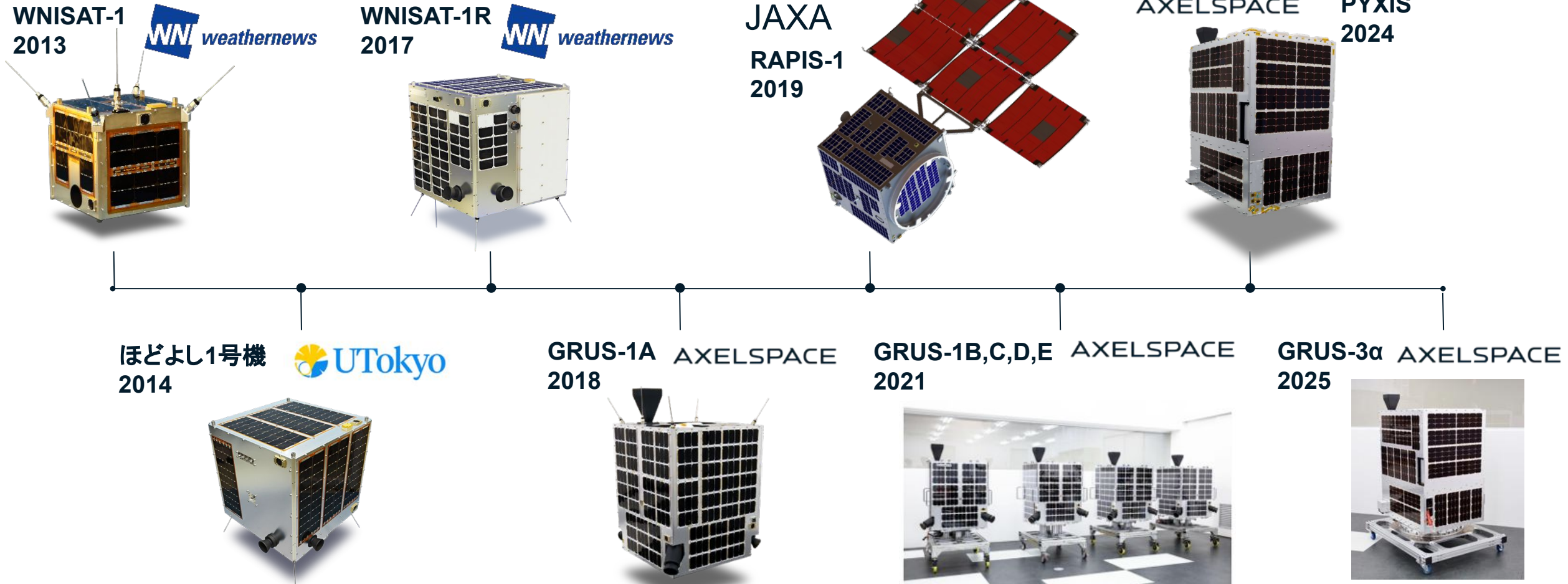
カメラ



さいめーるステーション
4,000名以上の方が登録

沿革

日本のスタートアップで初めてJAXAの衛星開発を受託する等、創業以来11機の小型衛星を設計製造、運用した実績を保有。技術の蓄積と社会ニーズの変化に合わせて着実に事業を拡大



ビジョン・ミッション

Space within Your Reach

～宇宙を普通の場所に～

私たちは小型衛星技術のパイオニアとして、宇宙ビジネスの先頭に立ち続けることで、従来の宇宙利用の常識を打ち破り、地球上のあらゆる人々が当たり前のように宇宙を使う社会を創ります。

事業概要

会社概要

商号	株式会社アクセルスペースホールディングス
所在地	東京都中央区日本橋本町三丁目3番3号
資本金	連結4,067百万円(2025年9月10日現在)
社員数	グループ全体 182名 (2025年5月末時点)
取締役	<ul style="list-style-type: none">代表取締役(CEO) 中村 友哉取締役経営管理本部長(CFO) 折原 大吾取締役コミュニケーション推進本部長(CHRO) 濱田 牧子社外取締役 鎌田 富久社外取締役 向井 千秋社外取締役 杉山 全功



当社の強み

100kg級の小型衛星・製造技術を持つ会社です。

短期・低コストでのサービス提供を実現



独自の設計基準と製造体制

宇宙空間での利用を前提としていない部品も採用を検討し開発コストを削減しつつ、商用に耐え得る品質を維持する開発手法を確立

独自の調達網の構築

宇宙空間でも活用できる民生部品を独自に選定

自動運用システム

クラウド上の自動運用システムが人工衛星の監視・運用の大半を無人で実施

当社の事業

創業以来培ってきた小型衛星開発・製造の技術を核に、2つの事業を展開

小型衛星
開発・製造技術



 AxelLiner

(サービス開始:2022年~)



顧客向け小型衛星プロジェクトの

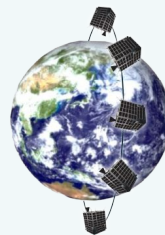
開発・製造・打上げ手配・運用を提供

2025年5月期売上高:13.2億円

国内・政府系機関への売上高が99%以上

 AxelGlobe

(サービス開始:2019年~)



自社運用衛星にて撮影した**画像データの販売**及び

画像データを使ったサービスを提供

2025年5月期売上高:2.6億円

売上高は分散しており、おおよそ

国内:海外=7:3

民間企業:政府系機関=50:50

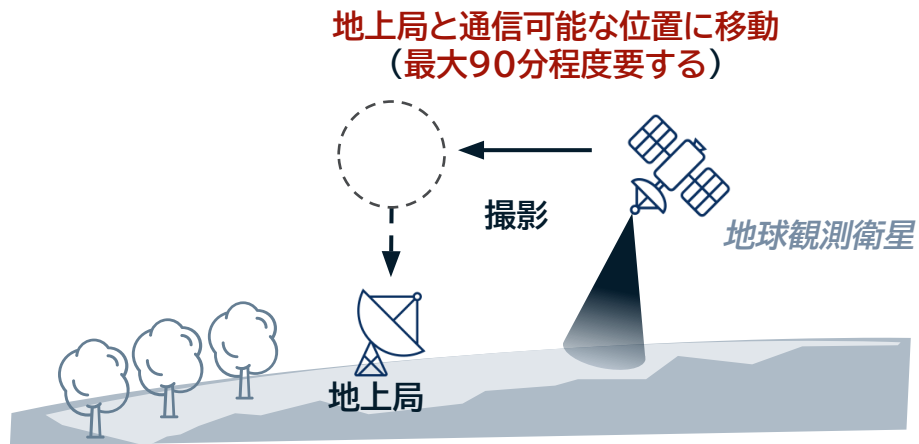
AxelLiner事業

主力プロジェクト:Kプログラム

効率的でタイムラグの少ない衛星運用の実現を目指す研究開発

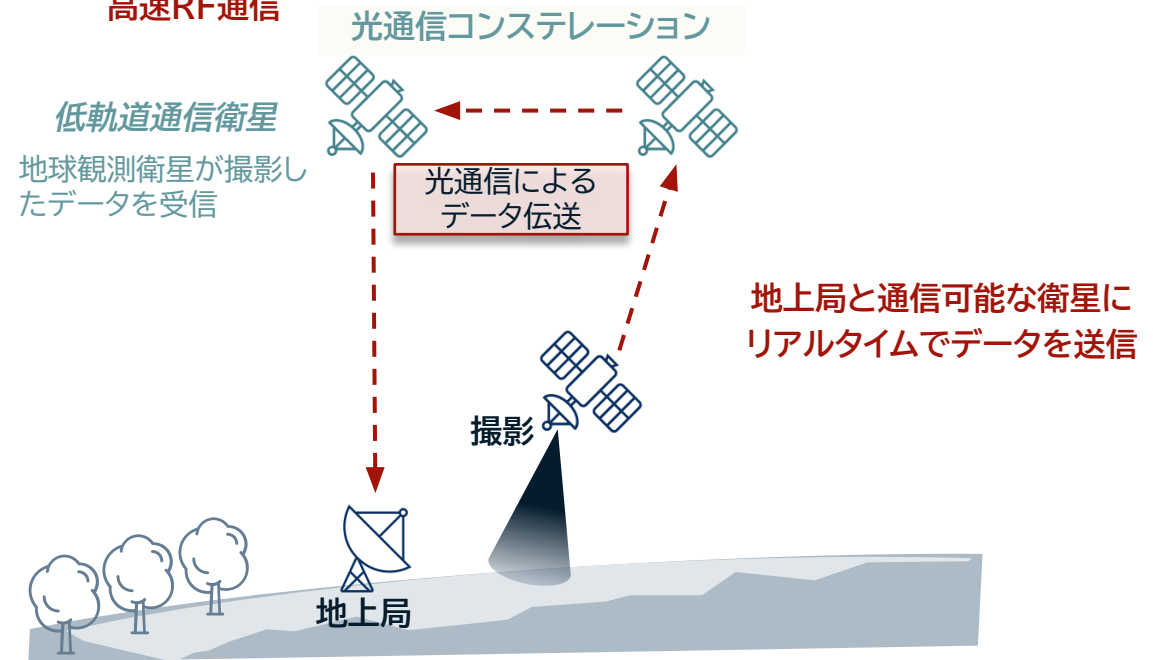
従来の地球観測

- ▶: 衛星の移動
- -▶: 無線通信



ニアリアルタイム地球観測の実現を目指す

- -▶: 光通信又は高速RF通信



AxelGlobe事業

現在5機の自社運用衛星で地球を“自由自在”に観測



羽田空港(東京)

航空機1機レベルの識別が可能

運用中のGRUS-1



- 世界中のどの地域も
2~3日に1回のペースで観測可能
- 安全保障のほか、農業、林業など
広い地域を頻度高く観測する場
面で**民間企業も活用**

AxelGlobe事業の事業領域: 光学衛星とSAR衛星

AxelGlobe事業で扱う光学衛星は撮影可能回数と撮影範囲の広さが特徴

	光学衛星	SAR衛星
データの扱いやすさ	<p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カラー画像 ・専門知識がなくても容易に扱うことができる  <p>当社衛星「GRUS-1」による撮影画像 東京(日本)</p>	<p>△</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モノクロであり、人間の目での判読は困難 ・データの扱いに専門知識が必要  <p>出所: Copernicus Browser「Sentinel-1 IW, VH - linear gamm」 (Copernicus Sentinel data 2025)</p>
撮影面積 *1	<p>広い</p> <p>当社GRUS-1の1機1日あたりの撮影可能面積: 150,000km²</p>	<p>狭い</p> <p>国内SAR衛星事業者A社の1日あたりの販売可能面積: 最大1,200km²*2</p>
製造コスト *3	<p>低い</p>	<p>高い</p>

*1: 衛星1機が1日あたりに撮影可能な面積。同様の衛星サイズであった場合の比較です。

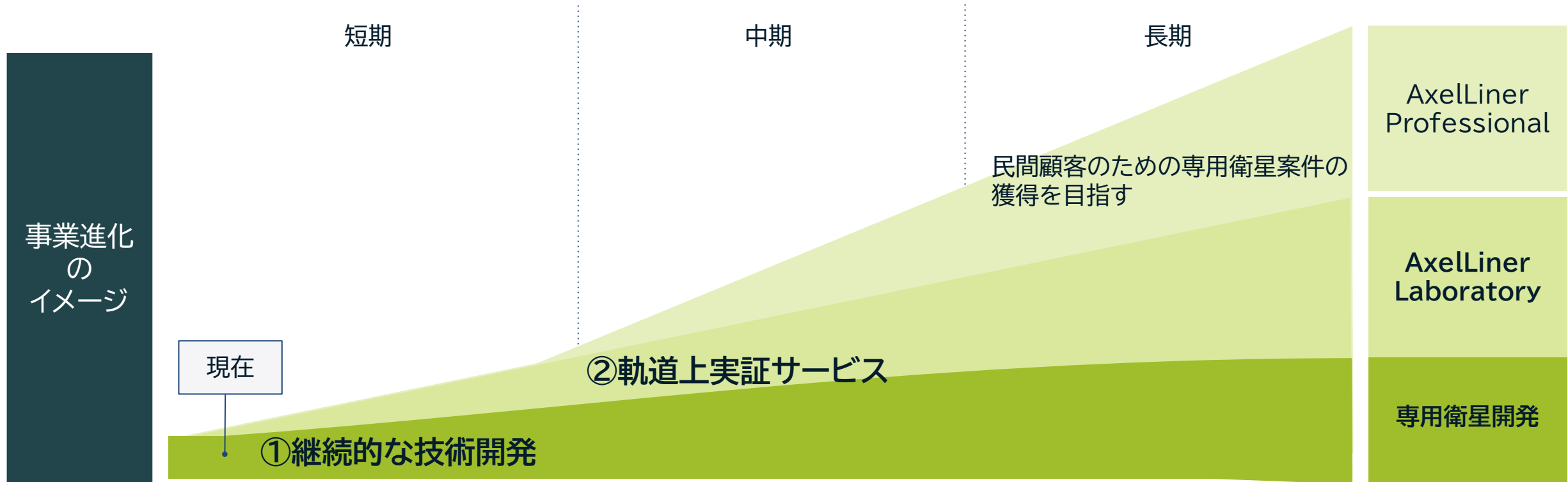
*2: 国内SAR衛星事業者A社の開示資料より、当社にて算出。算出式は、10km(高分解能モードにおける撮影域)×3km(高分解能モードにおける撮影幅)×40枚(1日当たりの販売可能枚数)。

*3: 国内SAR小型衛星事業者と当社の小型衛星製造コストの比較。当社製造コストについては11ページに記載しております。

事業戦略

AxelLiner事業の中長期の成長イメージ*1

継続的な研究開発活動を通じた技術開発と民間企業の需要獲得を目指す



*1: AxelLiner事業の中長期の成長イメージ図であり、実際とは異なる場合があります。

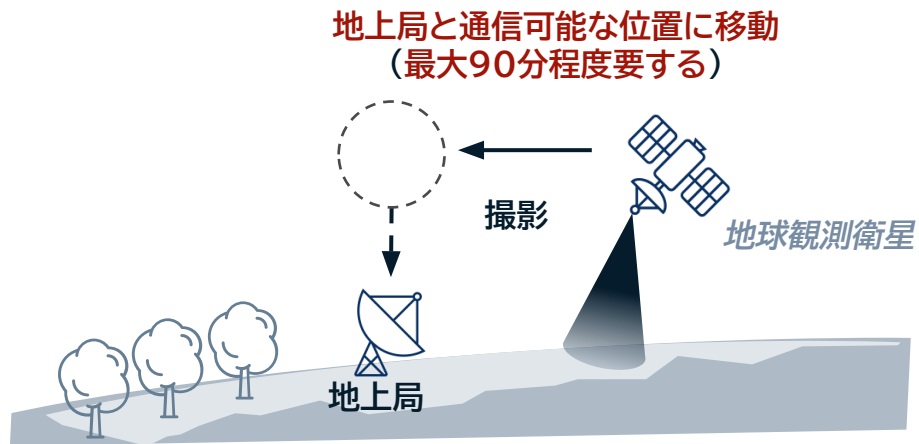
AxelLiner事業の成長: ① 継続的な技術開発の例

主力プロジェクト: Kプログラム

効率的でタイムラグの少ない衛星運用の実現を目指す研究開発

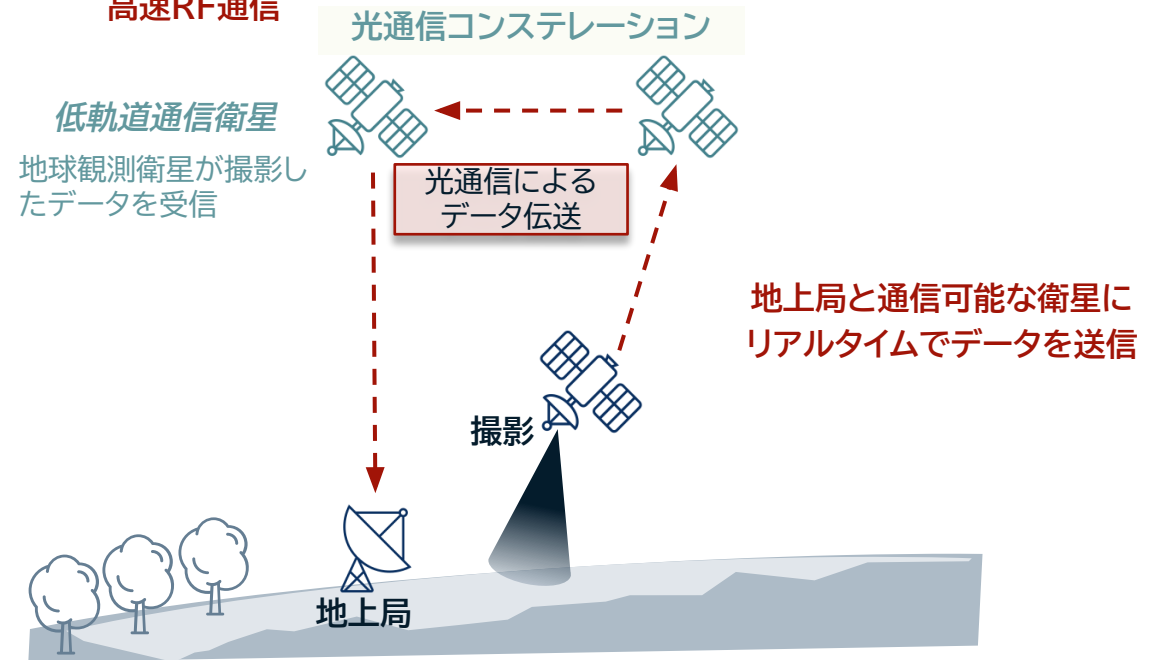
従来の地球観測

- ▶: 衛星の移動
- -▶: 無線通信



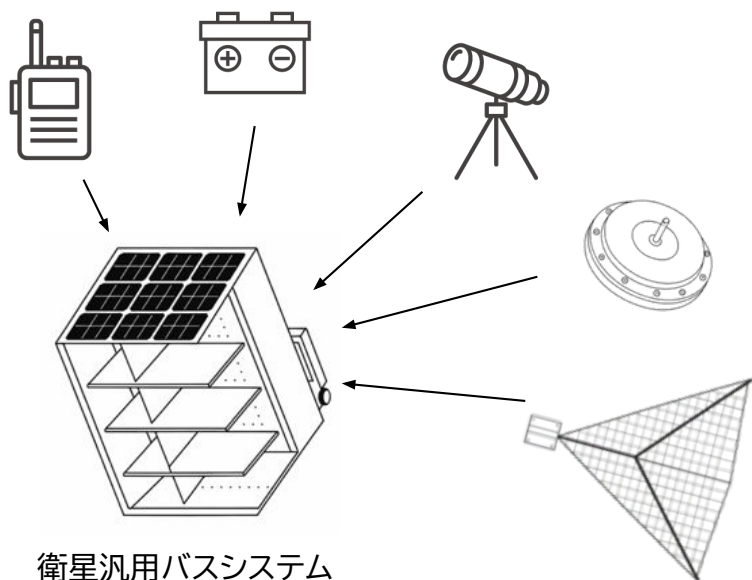
ニアリアルタイム地球観測の実現を目指す

- -▶: 光通信又は高速RF通信



AxelLiner事業の成長:②軌道上実証サービス「AxelLiner Laboratory」

宇宙機用コンポーネント/ミッション機器のために
実際の軌道環境での実証機会を提供



複数ペイロードによる
ライドシェア(相乗り)

ライドシェア により

低価格で

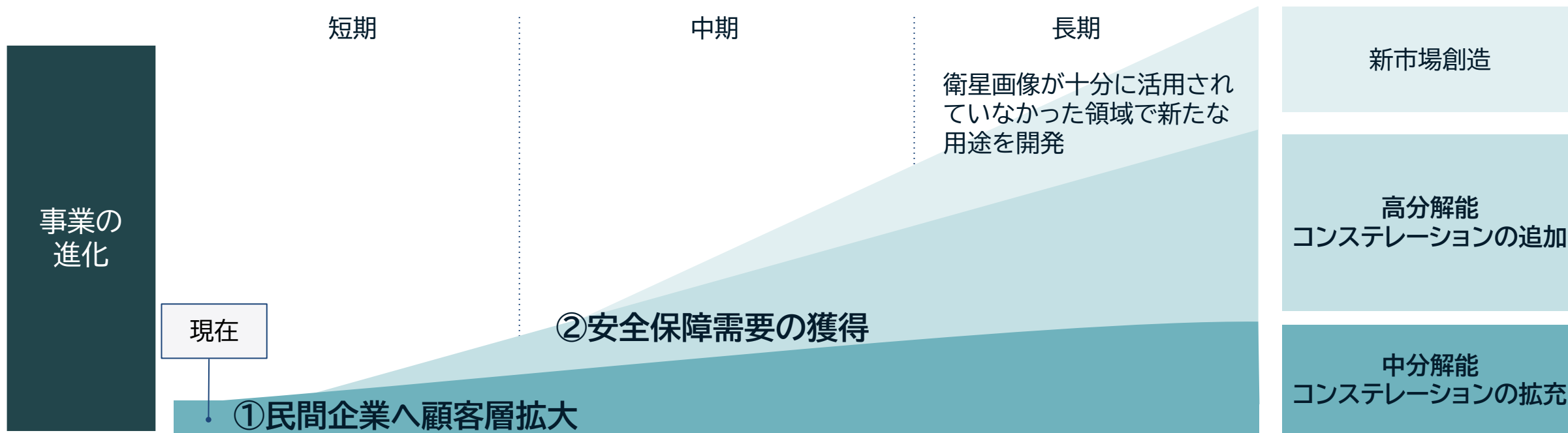
定期的な打ち上げ機会 により

迅速に

軌道上での実証を提供

AxelGlobe事業の中長期の成長イメージ*1

中分解能衛星7機および高分解能衛星3機の投入。それらの衛星を活用した新市場創造を目指す



*1: AxelGlobe事業の中長期の成長イメージ図であり、実際とは異なる場合があります。

*2: Tips & Cueとは中分解能衛星と高分解能衛星を組み合わせて運用し、広域・高頻度の観測データから関心地点を特定・抽出し、高分解能の観測データからその地点の詳細な観測を行う協調運用のことを指します。

AxelGlobe事業の成長:①民間企業へ顧客層拡大

次世代地球観測衛星 GRUS-3

グルーススリー

7機

2026年打ち上げ

撮影能力は現在の**3倍以上**に増加

AxelGlobe事業の成長:①民間企業へ顧客層拡大

新興国、特にアフリカでの宇宙利用拡大に対する取り組みを実施

アフリカ諸国との取り組み



詳しくは当社noteにて公開中

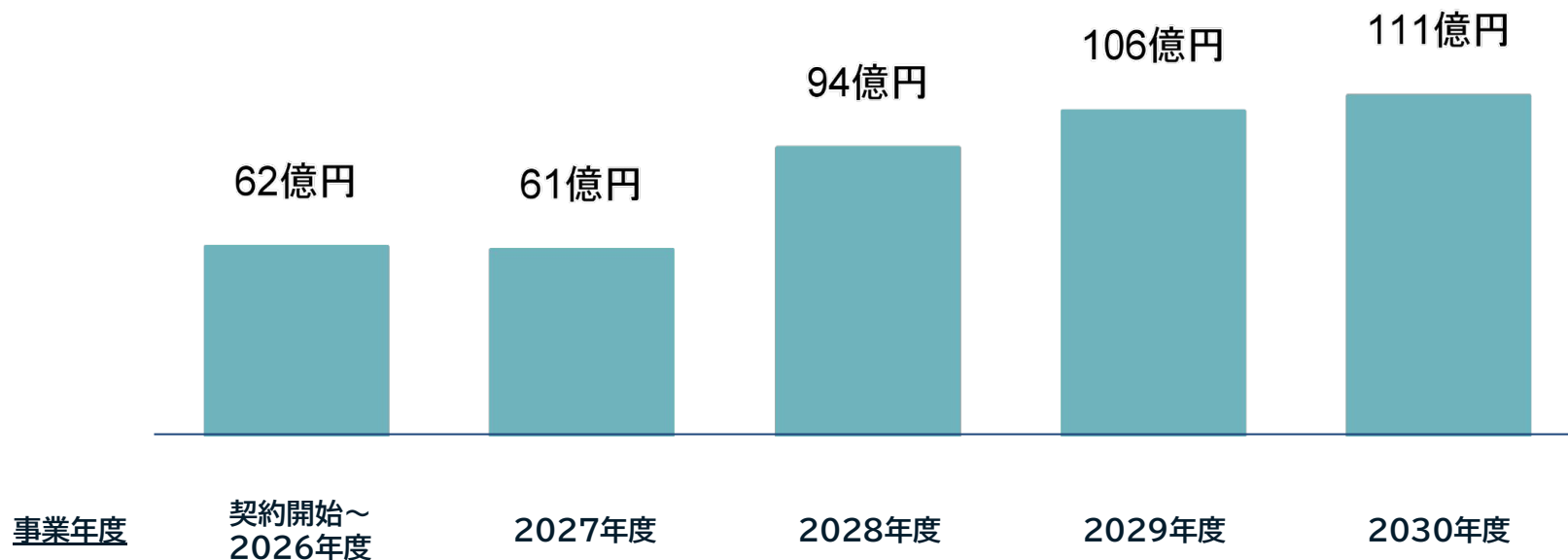


<https://note.com/axelspace/n/n458b63dc42fe>

AxelGlobe事業の成長:②安全保障需要件の獲得

防衛省の「衛星コンステレーションの整備・運営等事業」に唯一の光学画像提供者として参画。
事業期間を通じた当社グループの契約総額は436億円(税抜) / **480億円(税込)**。^{*1*2}

事業年度別の当社グループの想定売上高(税抜)^{*2}



発注者	防衛省
事業名	衛星コンステレーションの整備・運営等事業
事業期間	2026年2月19日から2031年3月31日 (約5年間)
契約名	画像データ取得業務委託契約
契約主体	株式会社トライサット・コンステレーション (構成員:三菱電機株式会社、スカパーJSAT株式会社、三井物産株式会社) 株式会社アクセルスペース 三井物産エアロスペース株式会社
契約金額	436億円(税抜) ^{*2}

*1: プロジェクトの失敗や中止等の事情により想定した時期に売上が計上されない可能性があります。また、プロジェクトの縮小等が決定された場合、記載の売上高が計上されない、または実際の受注の時期・金額が大きく異なる可能性があります。

*2: 億円以下を切り捨てて記載しております。また、年度は発注者の事業年度を示しております。

*3: 本ページには将来情報が含まれています。将来情報の前提、限界、制約、リスクについては2ページをご参照ください。

出所:当社開示資料「防衛省の「衛星コンステレーションの整備・運営等事業」の受注に関するお知らせ 補足説明資料」(2026年2月)

IR活動について

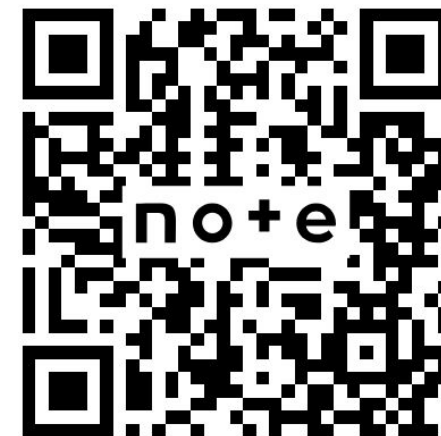
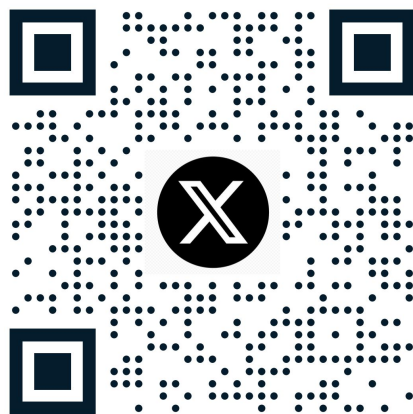
noteマガジン

Axelspace within Your Reach

小型衛星や宇宙を身近に感じていただける情報を
まとめています



SNSでも
情報を発信しております



ご清聴ありがとうございました

AXELSPACE

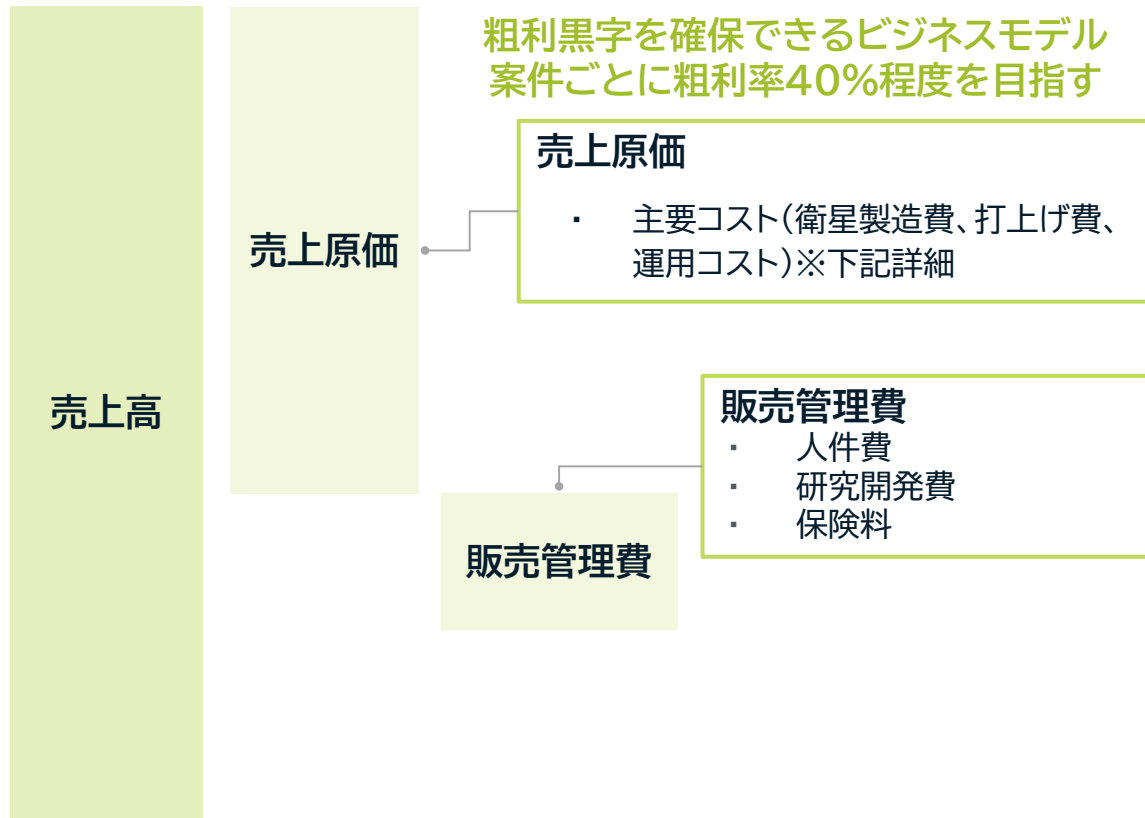
Q&A

Appendix

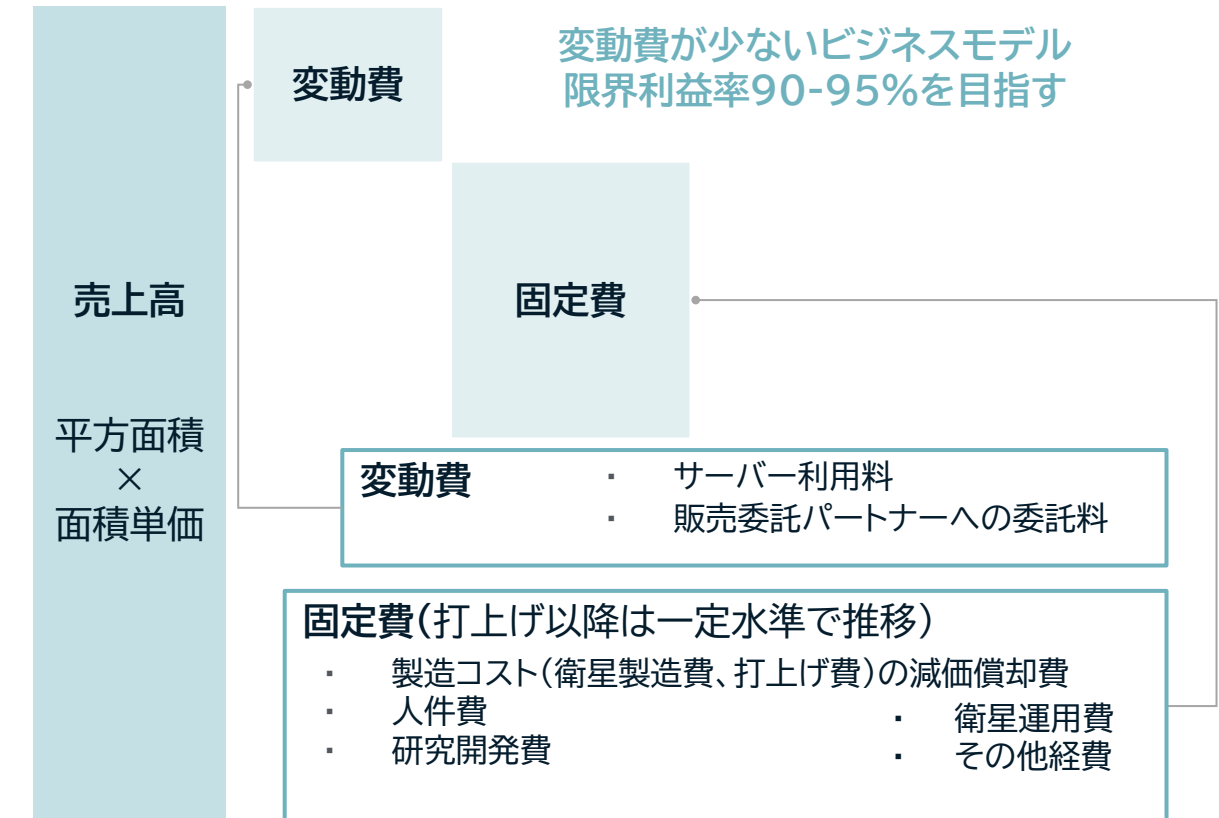
長期的なコスト構造イメージ *1

イメージであり、変更される可能性があります

AxelLiner事業



AxelGlobe事業



参考:現在の衛星1機当たり 製造コスト(概算)*2	=	衛星製造費*2 3.5億円	+	打上げ費用*2 3.5億円	=	約7.0億円	(ご参考)衛星運用費*3 0.5億円/年
------------------------------	---	------------------	---	------------------	---	--------	-------------------------

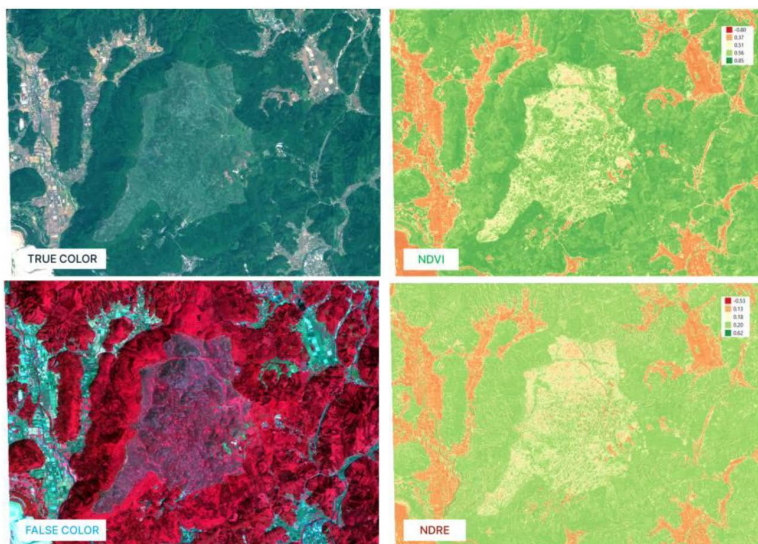
*1: 上記は、事業が順調に継続した場合の、長期的な収益及び費用構造を示したものであり、実際の売上高、コストとは大きく異なる可能性があり、将来の業績に関する予測又は見積もりを示すものではありません。また、上記の例示の内訳、収益及びコスト構造が将来実現することを保証するものではありません。

*2: 当社にて運用中の中分解能衛星の水準。自社商用衛星は5年で定額償却を想定しております。

*3: 地上局の利用料、データストレージ費用、運用人件費などから構成されています。

画像データ販売での活用事例 *1

農業



主要取引実績

農作物卸業者/データプロバイダー/
デベロッパー/エンジニアリング業者

事例: DATA FARMING様

広範囲かつ高解像度な撮影が求められる
プロジェクトを複数回実施

SSA(宇宙状況把握)



軌道上を漂うH2Aロケット2段目
(豪HEO Robotics社の要請によりGRUSが撮影)

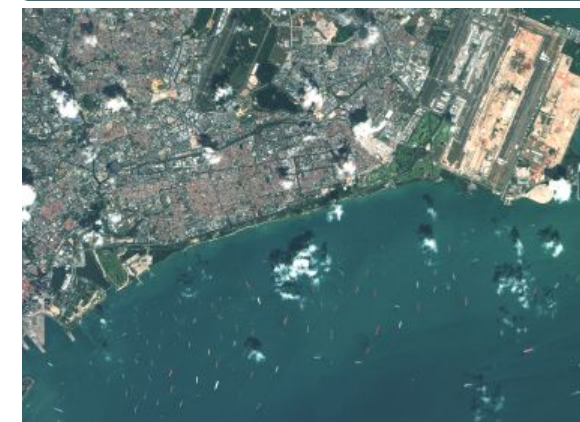
主要取引実績

HEO Robotics
NorthStar Earth & Space

事例: HEO Robotics様 データ活用分野:SSA

当社衛星の姿勢制御により、地球だけでなく宇宙空間
の撮影を実現

安全保障



主要取引実績

防衛省
経済産業省
公安調査庁

マッピング



主要取引実績

国土地理院
アジア航測
空間測量業者

*1: 現在取引されていない事例も含まれます。

*2: PoC中の案件になります。

主要なリスク：ローンチサービスプロバイダー(LSP)と打上げ失敗のリスク

民間企業主体の技術革新が進展しており、ロケット打上げ技術は成熟化。現在では非常に高い確率で打上げに成功。また、ミッションには宇宙保険を付保

LSPの選定方針

- 顧客ミッション、自社ミッションにかかわらず、開発プロセス・所要期間を試算の上、**早期段階から打上げ希望日程を特定**
- LSPエージェントなどを通じ、希望日程にてローンチサービスが提供可能なプロバイダーを早期に特定
 - 日程確保が可能であればスロットを速やかにブッキング
- 開発所要期間の試算や開発運用も習熟しており、結果的に「希望日程にてブッキングができなかった」ような事態は生じていない
- 打上げ頻度やその信頼性**を考慮し、現在は**SpaceX社**の優先度が高くなっている状況
- なお、現時点で当社は合計13機の衛星打上げスロットを確保済み

利用実績があるLSPの打上げ実績

- 当社は主に**SpaceX社**の**Falcon 9**を利用
- 現時点^{*1}での**成功率は99.32%**と非常に高い
- また、顧客ミッション、自社ミッションによらず、通常は**宇宙保険**を付保
- 仮に打上げ失敗によって衛星が全損した場合においても、保険金により**開発及び打上げコストの大半はカバー可能**

Falcon 9の打上げ実績



*1: 2025年3月4日現在
出所: SpaceXNow

比較:GRUS-3とGRUS-1 衛星コンステレーションの撮影能力

広範囲

高頻度



GRUS-3

1日の撮影能力(7機合計) : 最大 **2,300,000km²**

日本の面積の
約6倍

撮影頻度: **1日**

*撮影対象が北緯25度以上の場合



GRUS-1

1日の撮影能力(5機合計) : 最大 **750,000km²**




日本の面積の
約2倍

撮影頻度: **2~3日**

今後の衛星開発計画と打上げスロットの確保

●● : 打上げ実績

 : 打上げ予定(打上げスロット確保済み)
 : 協議中のプロジェクト/今後獲得を目指すプロジェクトで想定される打上げ予定

	2024年		2025年		2026年		2027年		
	2024年5月期		2025年5月期		2026年5月期		2027年5月期		
AxelLiner事業	KPI: 実証衛星としての打上げ機数(2025年5月期～2028年5月期までに累積6機)								
政府系機関案件								2機 Kプログラム 1機 JAXA-STEPS*2 (AL Lab)	
民間企業案件	 ● 1機 2024年3月: 「PYXIS」(自社実証)						1機 軌道上実証 (AL Lab)	2機 軌道上実証 (AL Lab)	
AxelGlobe事業	KPI: コンステレーション運用機数(2028年5月期時点で14機)								
中分解能	 5機 「GRUS-1A～E」	5機	 ● 1機打上げ*3 「GRUS-3α」			12機 「GRUS-3」7機 打上げ		11機*4	
高分解能								3機 3機 打上げ	+2機*5 打上げ時期未定

*1: 契約済みのプロジェクトについては、プロジェクトの失敗や中止等の事情により想定した時期で打上げが実施されない可能性があります。また、現在プロジェクトの一部しか契約締結していないものについても、当該プロジェクトの残部に係る契約未締結も含めて計画を記載しております。また、プロジェクトは通常単年ごとに契約が更新され(複数年契約となる場合もあり)、プロジェクト自体が取りやめられる場合には契約が更新されない可能性があります。更に、ステージゲート審査(中間評価)、その他の事情により案件が頓挫した場合、その時点以降の打上げは実施されない可能性があります。また、未契約分の打上げ予定については、現時点における見込みであるため、仮に契約が締結されたとしても、当該時期と、実際の受注の時期とは大きく異なる可能性があります。また、本ページには将来情報が含まれています。将来情報の前提、限界、制約、リスクについては2ページをご参照ください。

*2: 本資料公開日現在、同プログラムにおける研究開発/実証対象への実証機会提供に向け、ホステッドパイロードサービスの調達予定が公表されていることから、小型衛星開発において国内で実績のある当社が十分狙い得るプロジェクトとして掲載しております。現時点では本プロジェクトにおける情報提供要請が行われている段階であり、実際に受注できることを保証するものではありません。本件は実施機関の会計年度で2028年度以降の打上げが想定されています。

*3: 本衛星は実証機であり、コンステレーション運用機数に含めません。

*4: GRUS-1の耐用年数に鑑み、一部の機体がコンステレーションとしての運用を終了する見込みです。

*5: 本件は打上げ時期未定です。内容の詳細は2026年1月14日公表の「衛星の新規製造(設備投資)に関するお知らせ」をご参照ください。

注: 上記のスケジュールは、事業が順調に推移した場合の計画であり、実際の打上げスケジュールとは大きく異なる可能性があります。また、上記の打上げスケジュールが将来実現することを保証するものではありません。

Kプログラムのプロジェクト進捗に伴う原価発生イメージ

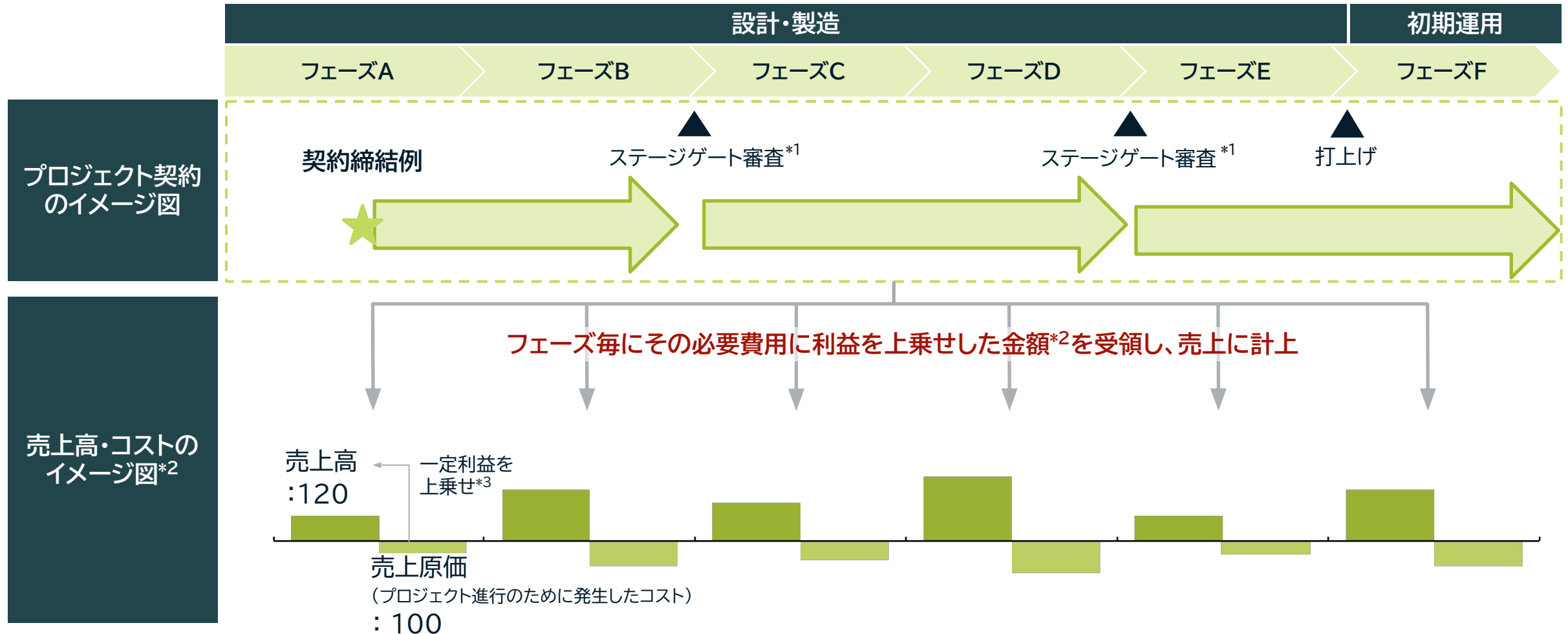
材料調達のフェーズで売上原価が増加し、設計、製造／試験のタイミングでは減少する傾向にある



*1: プロジェクト進捗における各フェーズで認識される原価についてイメージ化したものであり、実際のプロジェクトにおいて発生する金額とは異なる場合があります。

AxelLiner事業:売上の計上方法 (進捗イメージ)

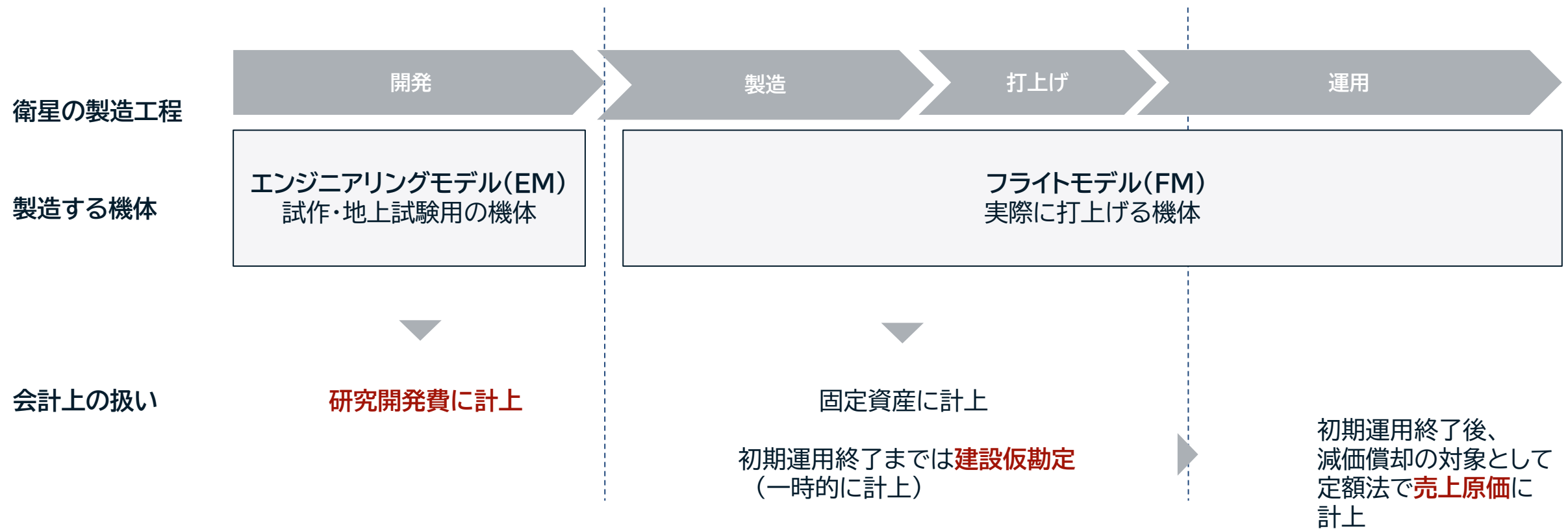
プロジェクト期間の長い政府系案件については、履行義務の充足に係る進捗度に基づき収益を認識



*1: 政府系開発案件では一般的な中間評価、スタゲゲート審査により案件が頓挫した場合、その時点以降の残りの売上が計上されない可能性があります。
 *2: 本イメージ図では、簡略化のため、実際には費用に上乗せされる利益を考慮せずにグラフを作成、また、各フェーズで認識されるキャッシュフロー及び売上金額は、実際のプロジェクトとは異なる場合があります。
 *3: 利益の上乗せ幅はプロジェクト毎に異なり、イメージを記載したものです。

AxelGlobe事業: 自社衛星の会計上の扱い

- 主にAxelGlobe事業に供する自社衛星は開発から運用のフェーズ進捗に応じて計上方法が変化
- 試作・地上試験用の機体の製造時は研究開発費として費用計上
- 打上げ機体の製造時は建設仮勘定として資産化の後、初期運用終了後に減価償却の対象となる

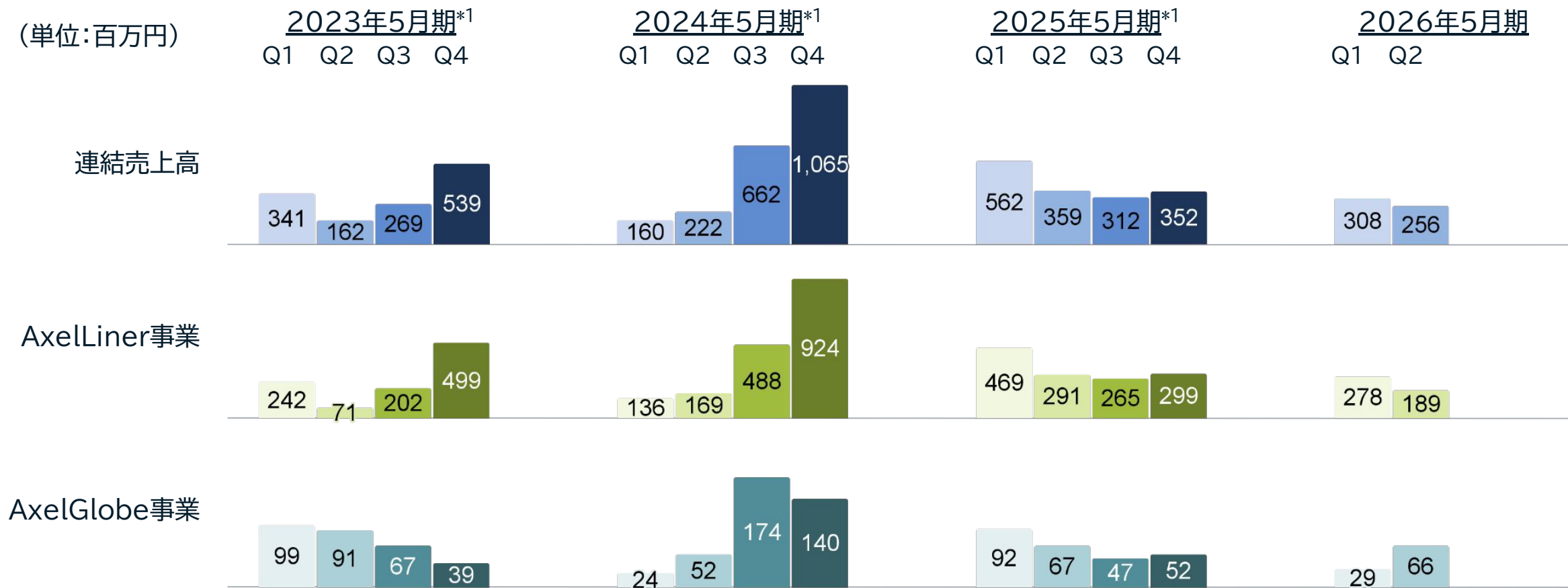


四半期業績推移

受託案件の納品・検収タイミングやプロジェクトの進捗状況などの要因により四半期ごとの大きく変動する可能性があり、特に第4四半期において売上高が多額となる傾向にある。

【セグメント別の四半期売上高推移】

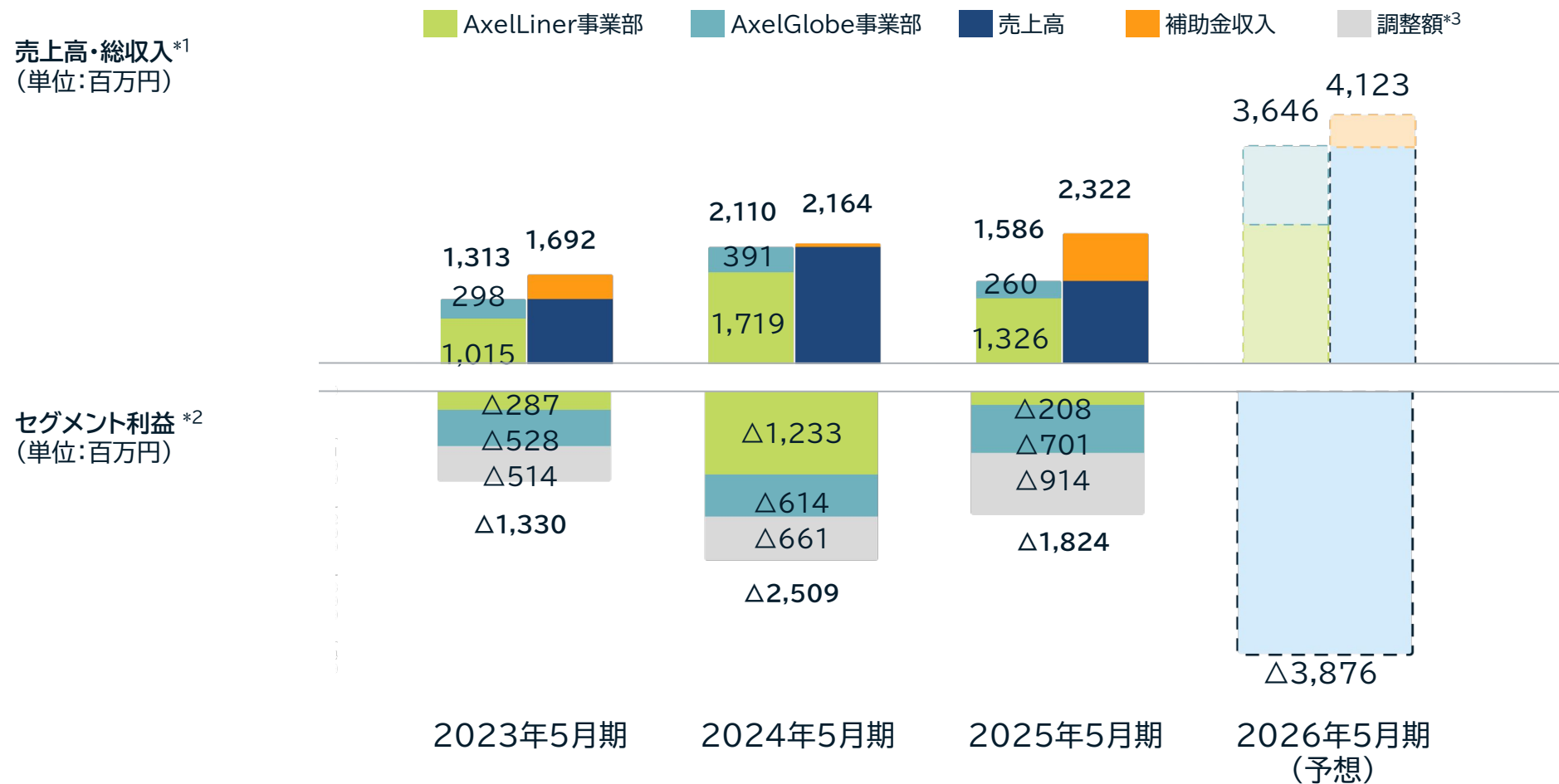
(単位:百万円)



*1: 2023年5月期、2024年5月期、2025年5月期Q1については四半期連結財務諸表を作成していないことから、参考値を記載しております。

業績推移見通し

2025年8月13日公表の2026年5月期の業績予想から変更なし。



*1: 総収入はNon-GAAP指標であり、投資家が当社グループの業績を評価する上で、当社が有用と考える財務指標です。政府系機関等からの補助金収入を売上高に加算して算出しております。

*2: 報告セグメントの利益又は損失は、経常損失ベースです。

*3: 調整額は各報告セグメントに配分していない全社費用(主に報告セグメントに帰属しない全社共通の管理費用)です。

業績予想(連結)

防衛省「衛星コンステレーションの整備・運営等事業」が2026年5月期通期の業績予想(2025年8月13日公表)及び来期2027年5月期以降の業績に与える影響は、現在精査中。本事業契約の締結は、令和8年2月頃と見込まれる。

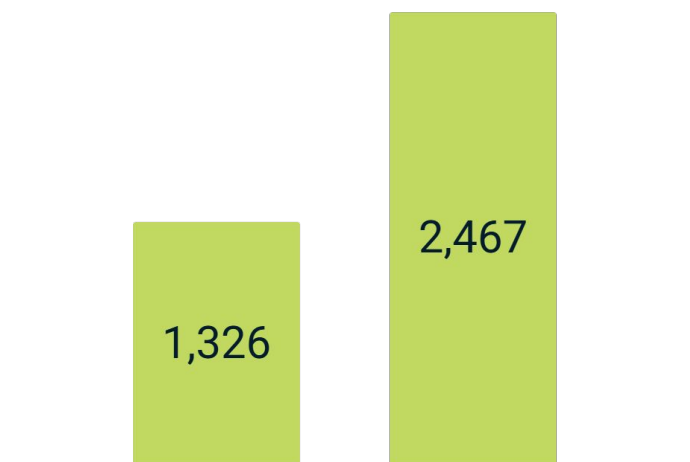
項目	(単位:百万円)	期別	2025年5月期 (実績)	2026年5月期 (予想)	前期比
売上高			1,586	3,646	+129.9%
営業損失(△)			△2,495	△3,999	-
経常損失(△)			△1,824	△3,876	-
親会社株主に帰属する当期純損失(△)			△1,950	△3,879	-
総収入(Non-GAAP)*1			2,322	4,123	+77.6%

*1: 総収入はNon-GAAP指標であり、投資家が当社グループの業績を評価する上で、当社が有用と考える財務指標です。政府系機関等からの補助金収入を売上高に加算して算出しております。

注: 業績予想の詳細に関しましては、2025年8月13日公表の「東京証券取引所グロース市場への上場に伴う当社決算情報等のお知らせ」をご参照ください。

セグメント別業績予想:AxelLiner事業

2026年5月期はKプログラムの進行、AxelLiner Laboratoryのプロジェクトを進行



【業績予想の主要な前提】*1

売上高

- ・ 契約に定められたサービス提供期間にわたり売上計上を行う契約とサービスに係る顧客の検収完了時点で売上を計上する契約が存在
- ・ 売上高予想は、主にNEDOのKプログラム及びAL Labを利用予定の民間企業からの売上高で構成
- ・ Kプログラムは、進捗に応じて発生する材料費・経費等の売上原価に、契約上の一定マージン率を乗じて算定

売上原価、売上総利益

- ・ 売上原価は、主にNEDO案件における材料費/経費、人件費を含む
- ・ 人件費は、プロジェクトごとの人員計画に基づき、人員数×平均1人当たり人件費により算定
- ・ 材料費/経費は、開発スケジュールに基づき必要な材料/サービス等の数量及び購買単価を見積り算定

【注記:営業外収益】

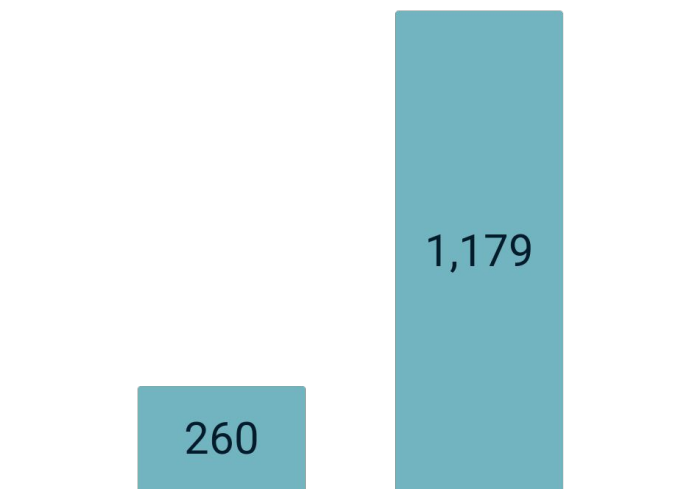
- ・ NEDO「超小型衛星コンステレーション技術開発実証事業(2023年度~2026年度)」(NEDOの会計年度)の採択済みプロジェクトに係る予定支出額に基づき助成金額見込みを算定し、精算・検査期間を勘案の上、業績予想に反映

(単位:百万円) 期別 項目	2025年5月期 (実績)	2026年5月期 (予想)	前期比
売上高	1,326	2,467	+86.0%
売上原価	1,206	2,247	+86.3%
売上総利益	120	220	+83.3%
売上高総利益率	9.1%	8.9%	△0.1pt

*1: 業績予想の策定プロセスの詳細に関しましては、2025年8月13日公表の「東京証券取引所グロース市場への上場に伴う当社決算情報等のお知らせ」をご参照ください。

セグメント別業績予想:AxelGlobe事業

2026年5月期は政府系案件の着実な実行を行うことに加え、2027年5月期打上げ予定の「GRUS-3」の製造を推進



【業績予想の主要な前提】*1

売上高

- ・ 主に画像撮影サービスに関する契約を締結し、顧客から依頼された画像撮影を実施・データを提供することで収益が計上
- ・ 売上高予想については、顧客別かつ月別の受注計画における案件ごとの受注額に、受注確度に応じた掛け目を乗じて算定
- ・ 各案件の受注額は、想定撮影面積に販売単価を乗じて見積もり。掛け目については、各案件の営業進捗に応じて設定

売上原価、売上総利益

- ・ 売上原価には、主に画像データの取得やデータ処理に関する経費、人件費を含む
- ・ 経費には、主に撮影画像データの保存等を行うためのサーバー費用、衛星と基地局との通信費及び外注費を含む

(単位:百万円) 期別 項目	2025年5月期 (実績)	2026年5月期 (予想)	前期比
売上高	260	1,179	+353.5%
売上原価	272	733	+169.5%
売上総利益(△損失)	△12	446	-
売上高総利益率	△4.8%	37.8%	+42.6pt

*1: 業績予想の策定プロセスの詳細に関しましては、2025年8月13日公開の「東京証券取引所グロース市場への上場に伴う当社決算情報等のお知らせ」をご参照ください。

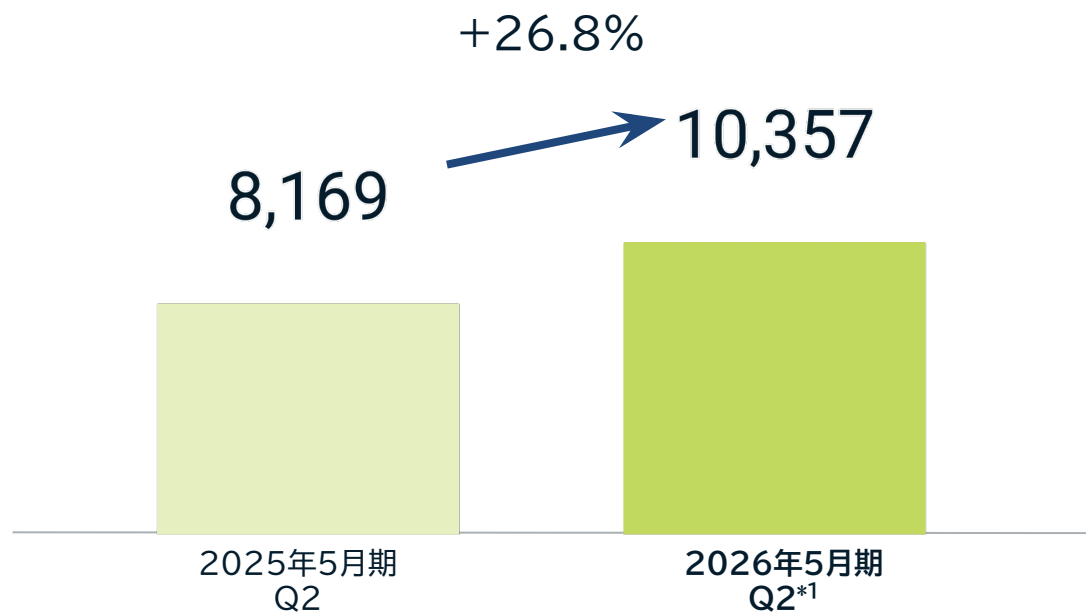
2026年5月期 第二四半期のセグメントごとの受注残高推移

受注残高は前期対比で事業セグメントいずれも増加

受注残高とは、該当期間末までの全期間における受注高の合計額の内、収益に未計上のものを指す。

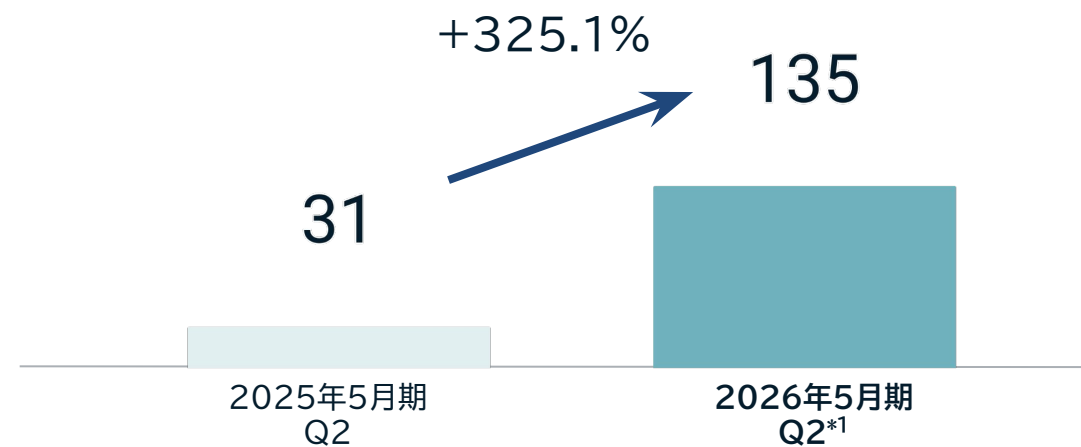
AxelLiner事業

(単位:百万円)



AxelGlobe事業

(単位:百万円)

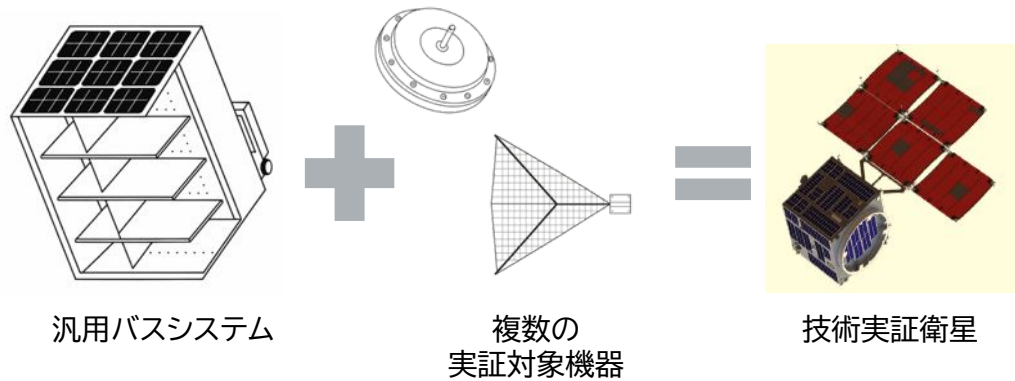


*1: 2026年5月期Q2末以降に受注した案件の残高は含まれません。
注: 本ページには将来情報が含まれています。将来情報の前提、限界、制約、リスクについては2ページをご参照ください。

今後のAxelLiner事業の成長：汎用小型衛星バスを活用しサービスを展開

汎用小型衛星バスの活用により最短1年での打上げを実現し、民間企業の宇宙ビジネスへの参入促進を企図

AxelLiner Laboratory(「AL Lab」)



宇宙用コンポーネントの軌道上実証を支援

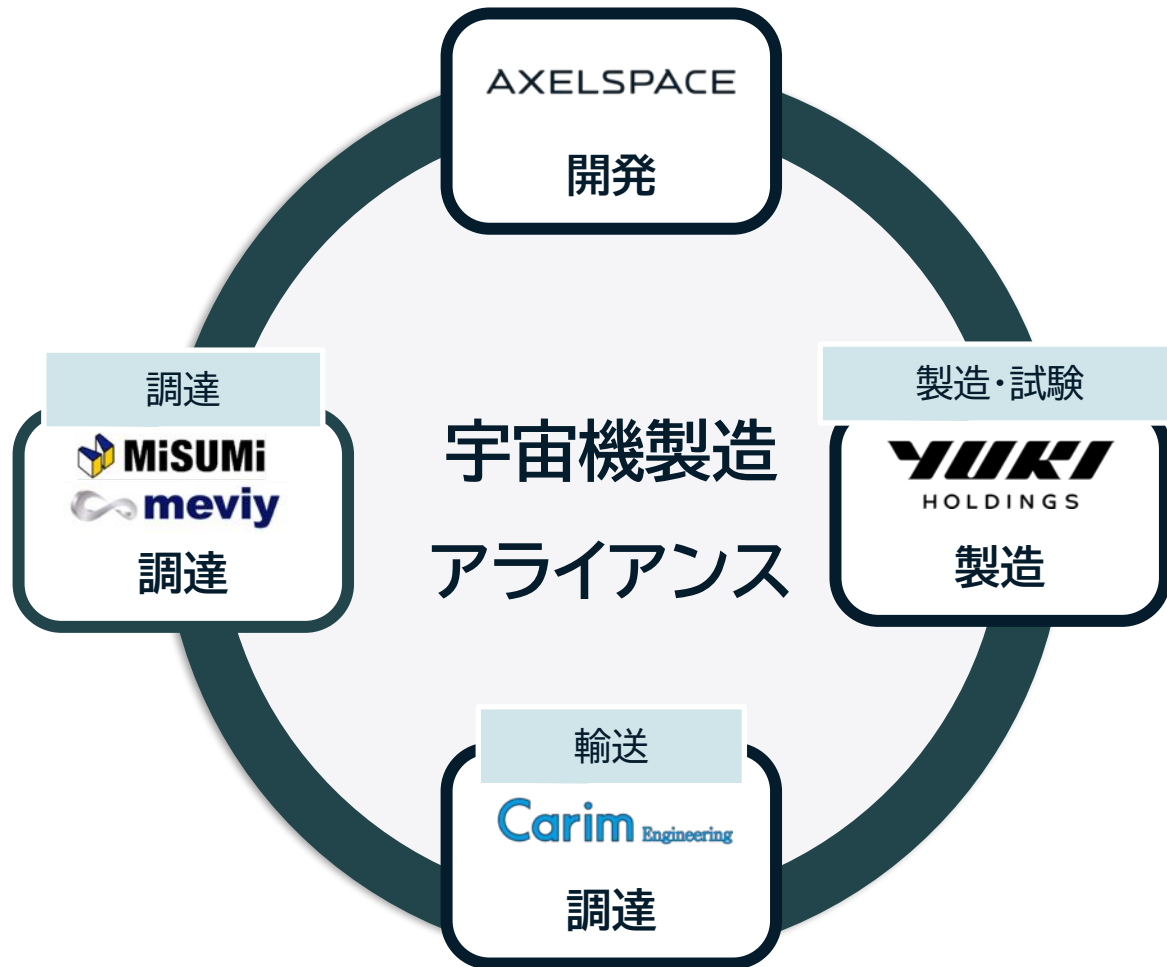
AxelLiner Professional(「AL Pro」)



顧客の独自ミッションを実現する専用衛星の開発を支援

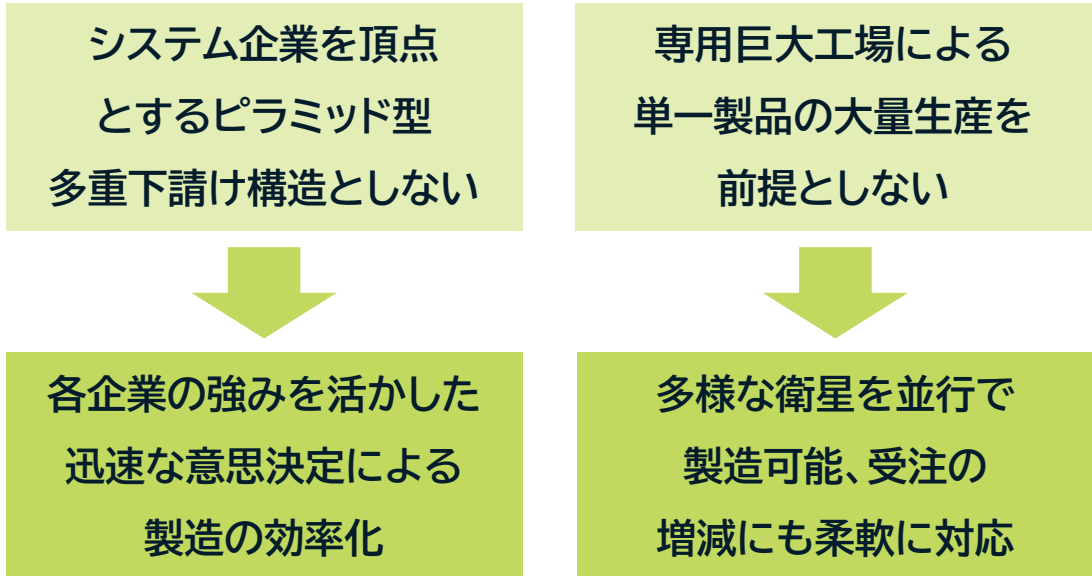
衛星製造体制

スピード感を持って世界と戦うため、革新的な衛星量産を実現する「宇宙機製造アライアンス」を構築。
中分解能衛星「GRUS-3」7機の量産に取り組んでいる



宇宙機製造アライアンス

アクセルスペースと製造関連企業がそれぞれの強みを活かして迅速な衛星製造に取り組むパートナーシップ。
地球環境負荷低減にも共同で取り組む。



サステナビリティへの取り組み



衛星開発から軌道上運用、廃棄に至るまでの

衛星ライフサイクル全体でのサステナビリティに対する取り組み

- ・ Sustainability for Earth: 衛星づくりでの地球環境負荷低減
- ・ Sustainability for Space: スペースデブリなど軌道上環境の持続可能性

Design

材料選定や形状決定の際、再突入時に燃え残らないような設計に



Manufacturing

調達・製造プロセスにおいてアライアンスで共通のガイドラインを制定



Operation

軌道上で能動的な衝突回避運用を行い、情報は積極的に開示



Disposal

運用終了後に可能な限り高い成功率と短い期間で軌道外に投棄



地球観測衛星とは

- 人工衛星とは、人によって作られた定常的に惑星を周回している人工物体です。主に地球を周回するものを指す。
- 衛星を用いて、地球を観測することを「衛星地球観測」という。地上からでは見渡せない広範囲を観測し、天気予報に必要な大気等の状況、地形情報等のさまざまな情報を提供できる。
- 衛星による地球観測は、高い高度から「広範囲」を「定期的」に観測できる点が強みであり、定点観測などに利用が可能

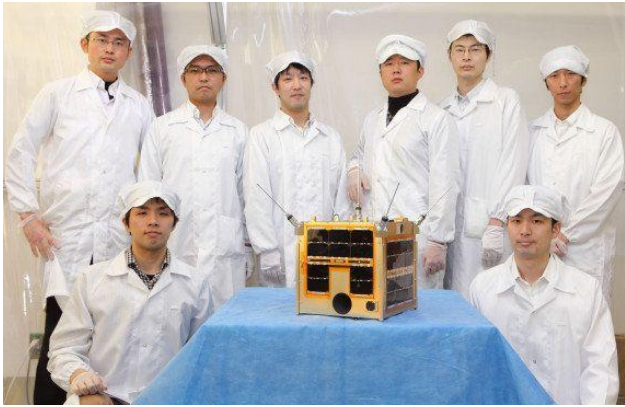


<地球観測低軌道衛星の強み>

	ドローン	航空機	低軌道衛星	静止軌道衛星
高度	~150m	約10km	~2,000km	約36,000km
観測範囲	0.1km ² 程度	1~100km ² 程度	観測幅数km~2,000km程度	地球表面の約1/3程度
空間分解能	1cm程度	3cm~1m程度	30cm~100km程度	500m~2km程度
均質性	×	△	○ 同一地点・角度で繰り返し撮影が可能	○
アクセス性	×	×	○	○

当社の事業領域

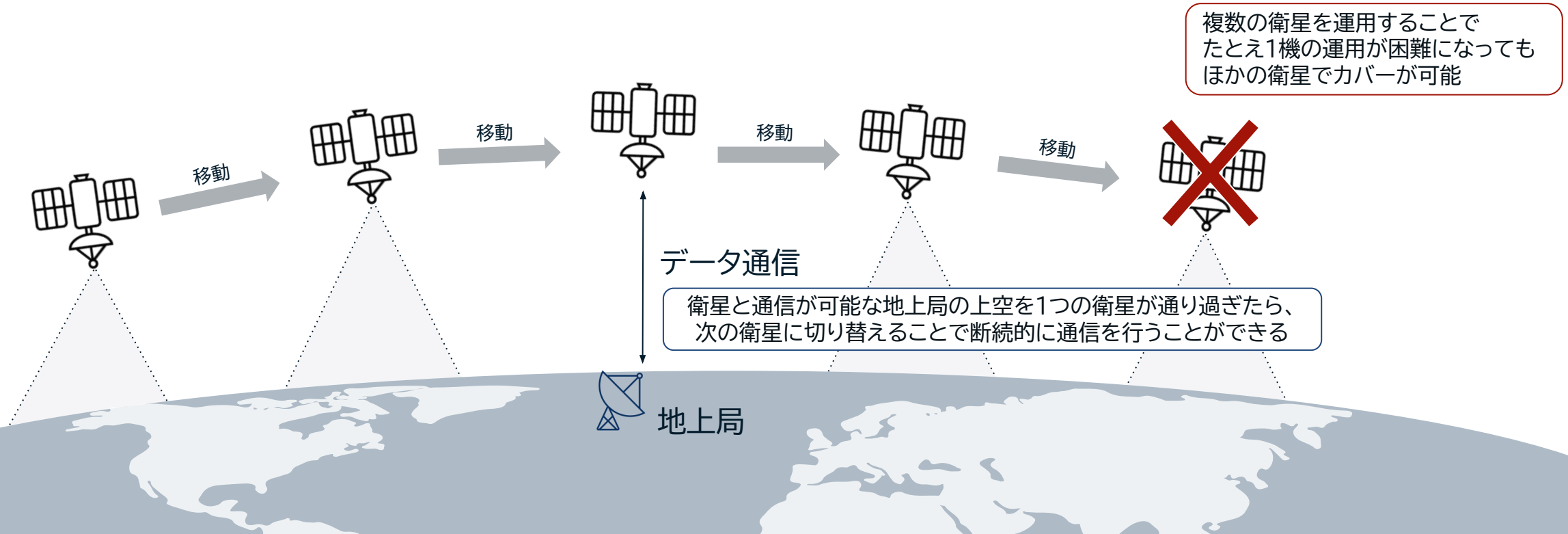
大型衛星と小型衛星の違い

莫大な予算を掛けて1機を開発し運用する大型衛星から、低コストかつ開発期間の短い小型衛星に注目が集まる

タイプ	超小型衛星(CubeSat)	小型衛星(MicroSat)	大型衛星
重量	～数百kg程度(※明確な定義は無い)		500kg～数トン
価格	1機 数千万円～数十億円程度		1機 数百億円
納期(開発期間)	1～3年程度		5～10年程度
部品	民生技術を積極的に宇宙転用		主に宇宙専用部品を使用
打上げ	小型ロケット等も活用、多頻度		基幹ロケット等を活用、小頻度
当社開発事例	WNISAT-1(2013年)	GRUS-1A(2018年)	-
サイズ	27cm x 27cm x 27cm	60cm x 60cm x 80cm	3.0m以上
重量	10kg	約100kg	1,000kg超
大きさのイメージ			 ※イメージ

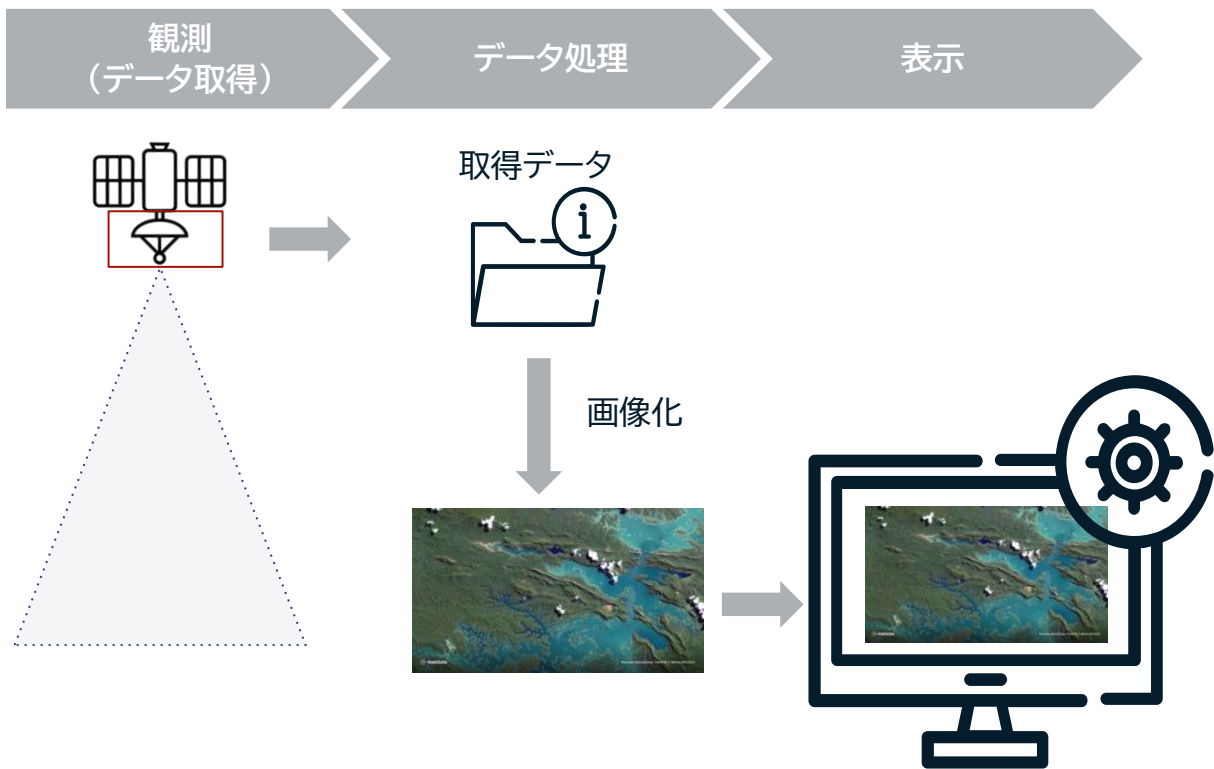
衛星コンステレーションとは

低コスト・開発期間の短縮化により、小型衛星を同じ軌道に配置し、一体的に運用するシステム(コンステレーション)のこと



中分解能/高分解能の違い

解像度と分解能



分解能 = 観測機器性能

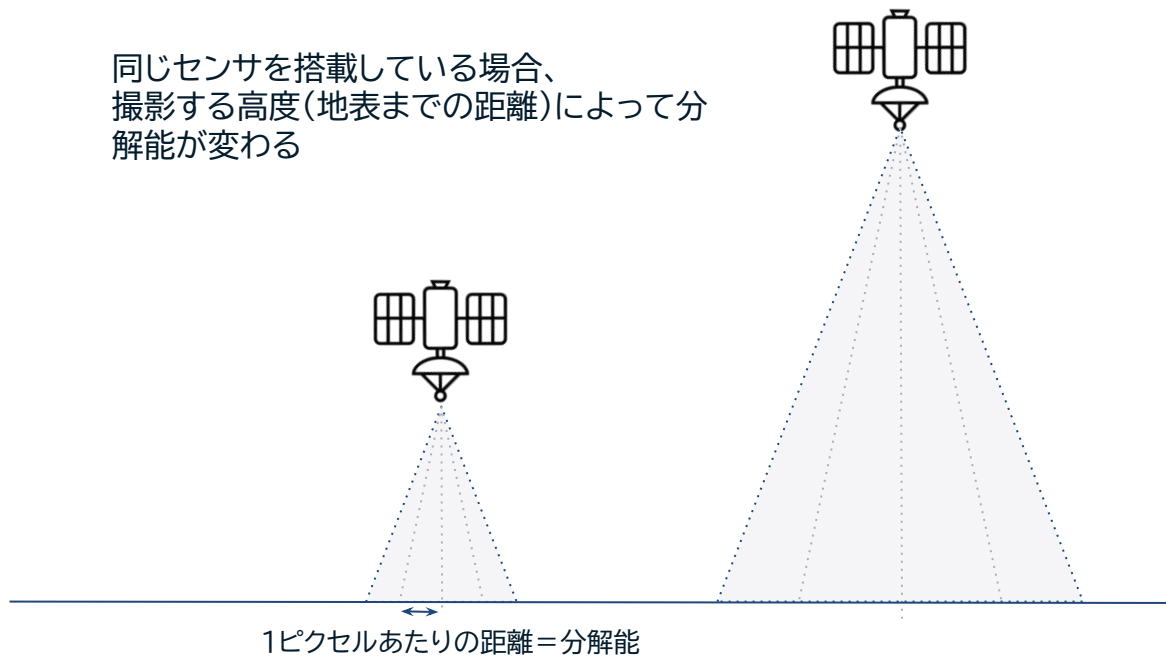
どの程度の細かさでデータを取得できるかを指す

解像度 = 表示機器性能

エンドユーザに提供される時に画像の1ピクセルが地表面の何mに相当するかを指す

軌道高度と分解能

同じセンサを搭載している場合、撮影する高度(地表までの距離)によって分解能が変わる



	高分解能	中分解能
撮影範囲	狭い	広い
分解能	細かい	粗い

光学衛星の仕組み

<光学衛星とは>

対象物に反射した太陽光の情報から地表を観測する衛星

光学センサを搭載した衛星で、通常のデジタルカメラと同様に太陽を光源として地上の様子を撮影



光学衛星の特徴

- ・ 自らが電波を発せず、受信による観測を行うため、電力消費が少ない
- ・ 電力消費が少ないことから、1機が1日あたり撮影する面積を広く、観測頻度を高く保つことが可能
- ・ 雲に遮られる部分は観測不可

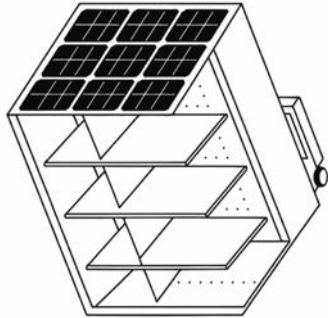
当社の小型光学衛星「GRUS-1」の撮影画像・スエズ運河(エジプト)

人工衛星の構造(汎用バスシステム)

人工衛星の構造

バス部(衛星基本性能)

- ・ 電源系統
- ・ ソフトウェア
- ・ 構造
- ・ 姿勢制御装置



ミッション部

- ・ カメラ、レーダーなど
その衛星で達成したい
目的に応じた機器



GRUS-1の場合は望遠鏡を搭載
※イメージ画像

従来の専用衛星開発時は、汎用化が不十分であり、複数の衛星案件を獲得して成長する上での課題があった。

今後開発する衛星の姿勢制御や電力供給といった衛星運用の基盤となるバスシステムを汎用化し、従来のフルカスタマイズ的手法と比較して、開発期間を大幅に短縮することを目指す。

<これまでの汎用衛星バスの実証>

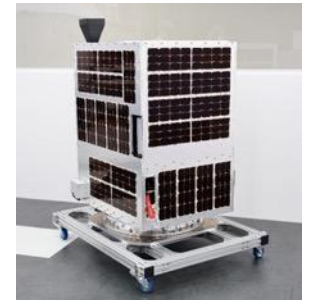
2024年3月に実証機
「PYXIS」を打上げ。

*打上げは成功、軌道投入後に電源系統の不具合により通信断絶



2025年6月に実証機
「GRUS-3α」を打上げ。

*初期運用中



注: GRUS-3及びGRUS-3αのミッションを搭載する衛星汎用バスシステムの開発および実証は、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の下記助成事業によるものです。
「宇宙産業技術情報基盤整備研究開発事業(超小型衛星の汎用バスの開発・実証支援) / 衛星コンステレーションのワンストップサービス実現に向けた超小型衛星実証事業」(2023~2026年度)
※2021-2022年度は経済産業省直執行事業にて実施。

事業遂行上の影響度の高い重要なリスクと対応方針

具体的なリスク	顕在化の可能性	顕在化の時期	影響度	リスクに対する備え
衛星画像サービス市場の成長鈍化	中	特定時期無し	大	衛星画像を利用したことのない新規顧客の開拓や、既存顧客との衛星画像の新規ユースケースの開拓に取り組む
競合	中	特定時期無し	中	ユーザー業界のニーズに合わせたソリューションの提供等、お客様目線に立ってサービスをより充実させていくと同時に、知名度向上に向けた取り組みを積極的に行う
AxelLiner事業における民間案件の受注見込みの遅延	中	3年以内	大	目指すビジネスモデルの実現のため衛星の開発サイクルを早め、衛星技術の精度向上に取り組む
当社のMOU等	中	3年以内	大	基本合意書(MOU)を締結した企業との情報交換頻度を高め、技術成立性や経済合理性など顧客と当社の認識の相違が起らない状態で商談を進める
政府機関の顧客	中	特定時期無し	大	AxelLiner事業・AxelGlobe事業それぞれにおいて、民間企業からの新規契約の獲得を通じて収益の分散化を推進
事業の特性による外的要因	高	特定時期無し	中	予期せぬ問題が発生した際の意思決定・情報伝達について定め、迅速に経営に反映できるよう準備
開発遅延	中	特定時期無し	大	重要な技術開発にかかる進捗については、毎月の取締役会等で継続的に状況を確認・管理することとしており、開発スケジュールへ影響を及ぼさないよう調整を行う
サプライチェーンのリスク	中	特定時期無し	中～大	コンポーネントの調達に際しては、性能や軌道上の技術的信頼性だけでなく、安定供給の観点からも仕入先の選定を検討し、複数社からの調達可能性を重視
衛星の打上げ失敗	中	特定時期無し	大	衛星の打上げ事業者の選定に際しては、打上げ時期の当社グループ事業計画との整合性のみならず、打上げ実績及び打上げ頻度を重要な基準とする。また、打上げの失敗に備えて、保険事業者が提供する打上げ保険にも加入
軌道上の衛星の故障	中	特定時期無し	中	衛星コンステレーションを構築することで、仮に運用中の衛星に不具合が生じた場合であっても、他機による早期のリカバリーを行う体制を図る
AxelGlobeウェブサイトの安全性	低	特定時期無し	大	顧客の営業上の秘密情報の流出を防止するためにウェブサイトの稼働状況の監視体制の整備に加え、異常が生じた場合にはただちに検知する仕組みを構築
黒字化を達成及び維持できないリスク	低	3年以内	大	AxelLiner事業及びAxelGlobe事業を通じて、将来の利益拡大を目指す

詳細:29ページ
ご参照

詳細:50ページ
ご参照

*1: 本資料において記載対象としないその他のリスクについては、Iの部(及び有価証券届出書)の「事業等のリスク」に記載しております。

主要なリスク：軌道上の衛星の故障

軌道上の衛星が故障した際、衛星開発から運用までを一気通貫で手掛ける当社の知見を活かし、復旧を目指す。そのため、故障が必ずしも使用不可能に直結するものではない。復旧ノウハウは自動運用システムに反映され、今後の不具合対応に活かされる

過去の不具合対応(GRUS-1E不具合発生時)

【不具合発生】

AG事業の自社衛星5機の内1機、GRUS-1Eにて、衛星の安定的な姿勢制御に使用される3軸姿勢制御が機能せず、角運動量(回転しようとする力)が増加する不具合が発生

【顧客への影響精査】

データ提供は他衛星4機の運用で対応可能であることを確認

【復旧作業】

他の姿勢制御方法を適用することで、角運動量を削減

【復旧検証】

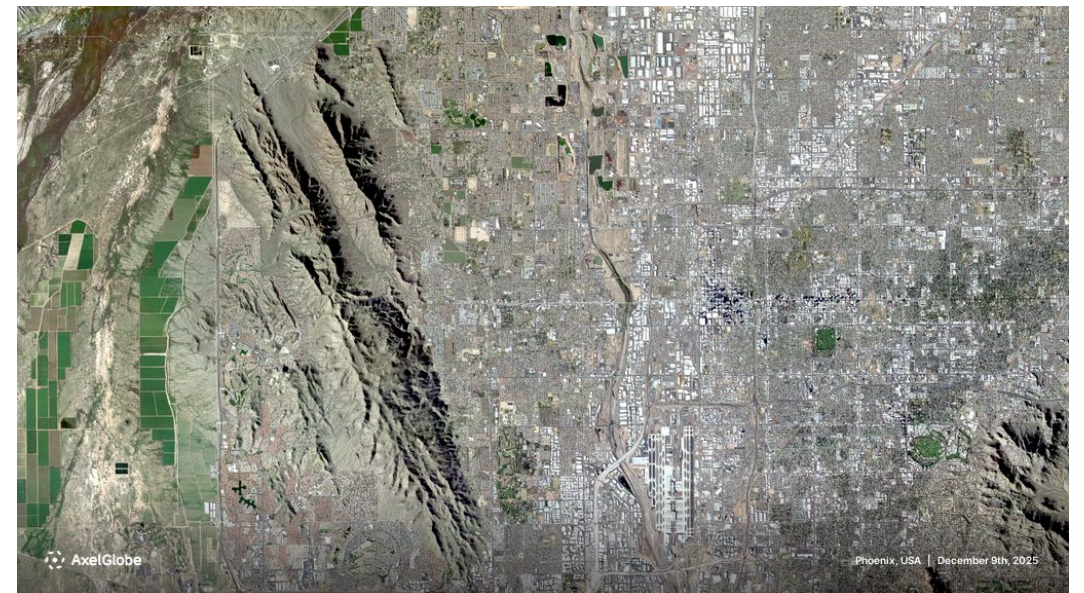
角運動量が削減された状態で、通常運用が可能かを検証
撮像・通信・画像生成が通常どおりできることを確認

【商用運用の再開】

上記の対策により、他の自社衛星4機と同じく自動運用システムでの運用を行えるよう復旧作業を完了

GRUS-1Eの商用運用再開

自動運用システムでの画像データ取得を可能とする機能を開発
2026年1月13日に商用運用の再開を発表*1



GRUS-1Eで撮影した画像(アメリカ合衆国アリゾナ州フェニックス)

*1: 詳細は2026年1月13日公開の「AxelGlobe事業の小型衛星「GRUS-1E」、商用運用再開のお知らせ」をご参照ください。